

①施策の目的等

施策の名称	施策Ⅲ-2-2 スポーツの振興
目的	○県民一人ひとりの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて多様なスポーツ活動が実践できる環境づくりを目指します。 ○国際大会や国民体育大会などの全国大会において、優秀な成績を収められる選手の育成を目指します。

②成果参考指標の目標（実績）と施策の現状、及びその評価

数値目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	数値目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
スポーツに取り組んでいる人の割合	目標値		37.0	38.0	39.0	40.0	%	国民体育大会年間入賞種目数	目標値		26.0	27.0	27.0	28.0	種目
	取組目標値								取組目標値						
	実績値	36.4	36.1	33.0					実績値	26.0	25.0	31.0			
	達成率	-	97.6	86.9	-		%		達成率	-	96.2	114.9	-		%
全国中学校体育大会・全国高等学校総合体育大会等の年間入賞種目数	目標値		53.0	54.0	55.0	56.0	種目		目標値						
	取組目標値								取組目標値						
	実績値	58.0	73.0	60.0					実績値						
	達成率	-	137.8	111.2	-		%		達成率	-	-	-	-		%
定性目標	平成28年度～平成31年度														
成果参考指標の実績等の補足説明（任意記載）	国民体育大会年間入賞種目数について、近年になく好成績であった平成29年度は目標値を超えたが、毎年常に増え続けるものではなく各年において変動するものであるため、取り組み目標値は設定せず引き続き当初設定した目標値とする。 同様に、全国中学校体育大会・全国高等学校総合体育大会等の年間入賞種目数についても3年連続して平成31年度の目標値を超えているが、各年において変動が大きいため、当初設定した目標値（過去5年間の平均値53と過去5年間の最高値58の中間値である56）を平成31年度目標値として引き続き取り組んでいく。														

③評価時点での施策目的に対する現状

評価時点で施策目的に対する現状 (客観的事実・データなどに基づいた施策の現状や取組状況)	<ul style="list-style-type: none"> 「スポーツに取り組んでいる人の割合」はやや下がった。また、年代が上がるにつれスポーツに全く取り組んでいない人の割合が高い傾向にある。 幅広い年齢層の県民が、公共施設などを利用して複数の種目のスポーツ活動ができる「総合型地域スポーツクラブ」の数は県内34か所で、近年横ばいである。 国民体育大会の競技得点は、現在の得点方法へ変更されてから最高点の406点（平成28年度：232点）で、天皇杯順位も昨年度から7つ上げて38位だった。
---	--

④総合的な評価

評価時点での総合的な評価 A:順調に進んでいる B:概ね順調に進んでいる（見直す点がある） C:あまり順調に進んでいない	判断	その理由
	B	<ul style="list-style-type: none"> 全国レベルで活躍する選手の育成や競技力向上を図るために指定された重点校などの強化指定校を中心に強化を行い、中・高校生での入賞数60は、過去10年間の中で2番目に多かった。 「しまね広域スポーツセンター」による総合型地域スポーツクラブの育成やスポーツ情報の提供などを行うことで、障がいのある方も含め、多くの県民がスポーツ活動を実践できる環境は整いつつある。 国民体育大会の競技得点（406点）、総合順位（38位）ともに例年よりも大幅にアップすることができた。入賞種目数も平成28年度の25から31に増加し、各種競技力向上事業の成果が表れた。 高い競技得点をあげる一方で、強化指定競技以外での入賞がほとんどない。

⑤課題の認識

(1)平成31年度末の施策目的の達成状況（予測） A:達成できる B:概ね達成できる C:達成は困難	判断	その理由（④の「判断」と異なる「判断」の場合のみ記載）
(2)施策の目的達成に向けての課題	B	<ul style="list-style-type: none"> 国体において、幅広い競技種目に対する支援が十分ではない。 優秀な指導者の確保、養成と、その指導者が継続して強化指定校等で指導にあたる必要があること、外部人材の活用が求められる。 総合型地域スポーツクラブの運営主体はNPO等が多く、自主財源の確保が困難であったり、地域住民への活動内容の情報提供が不足しているなど、新たな参加者の掘り起こしに苦慮しているクラブも多い。 成年選手の雇用の受け皿となる企業等の確保が課題である。 県外へ進学した大学生など「ふるさと選手」として国体に出場する選手への働きかけは、競技団体によりバラツキがある。

⑥今後の取組みの方向性

課題解決に向けての今後の取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、重点校などの強化指定校に対する競技力強化を図るとともに、未普及競技については各競技団体の地域と一体となった普及事業や強化策を推進し、幅広い競技での選手の育成に取り組む。 部活動指導者としての外部人材の活用を充実させ、教職員の専門性がなくても指導できる運営体制を構築し、更なる競技力の向上を図る。 生涯スポーツの推進役である「しまね広域スポーツセンター」と連携し、総合型地域スポーツクラブのマネージャーの育成、指導者の派遣や育成、各クラブの運営支援を行う。また、「今後スポーツに取り組んでみたい」という人の割合は増えていることから、ホームページなどを活用した県民への周知を行うことで総合型地域スポーツクラブへの新たな参加者を増やすなど、生涯スポーツの推進に取り組む。 企業などにスポーツに対する理解や関心を高めてもらい、成年選手の職場の受け皿となってもらえるよう働きかけ、成年選手の競技継続を支援する。 ふるさと選手に対する働きかけは、県外の学校等へ進学する際や毎年の国体開催時など、機会を捉えて競技種目に関わらず均一に行っていく。また、国体でのふるさと選手の活躍を広く広報することで選手本人の意識を高めていく。
---------------------	--

施策評価シート別紙2(事務事業一覧)

施策の名称	施策Ⅲ-2-2 スポーツの振興				
-------	-----------------	--	--	--	--

(単位:千円)

	事務事業名	目的(意図)	前年度 事業費	今年度 事業費	所管課名
1	生涯スポーツ推進事業	各地域で、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じたスポーツ活動を実践する。またスポーツ・レクリエーション活動の楽しさを体験することにより、継続的なスポーツ活動への意欲を喚起する	24,172	26,262	保健体育課
2	競技スポーツ普及強化推進事業	競技力の向上を図り、全国規模の大会で活躍する選手の育成・強化を行い、競技スポーツの普及・推進を図る	154,991	160,247	保健体育課
3	国民体育大会選手派遣事業	多くの選手が国民体育委員会の本大会へ出場して活躍することが県民の大きな活力となり、スポーツの普及振興につながる	78,413	98,504	保健体育課
4	県立体育施設管理運営事業	施設の利便性を高め、施設利用者を増やすことを通じて、スポーツの普及を図る	391,826	346,413	保健体育課
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					